

平成 24 年 7 月 6 日

アオコ情報 (No. 4)

今後一週間は 9 日 (月) 以降にアオコの発生量が急激に増加するとともに、吹き寄せられたアオコが著しく集積する場所がさらに増加すると考えられます。

《調査内容》

場所：西浦, 北浦

日時：平成 24 年 7 月 4 日 午前 7 時 30 分～午後 13 時 30 分

内容：気象等, アオコの発生状況, フィコシアニン濃度

《結果》

①アオコの発生状況

図 1 に今回の調査によるアオコの発生状況を示します。西浦では土浦入り全体でアオコレベルが高くなっていました（高浜入りは未調査。霞ヶ浦河川事務所の調査によればアオコレベルは最大で 5 に達している）。北浦では北浦大橋付近を境に南側でアオコレベルが高く、北側では低くなっていました。また、港（舟溜）や入り江などではアオコが吹き寄せられて、アオコレベルが 3～5 に達している場所が多数みられています。

※) 霞ヶ浦河川事務所の「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html>

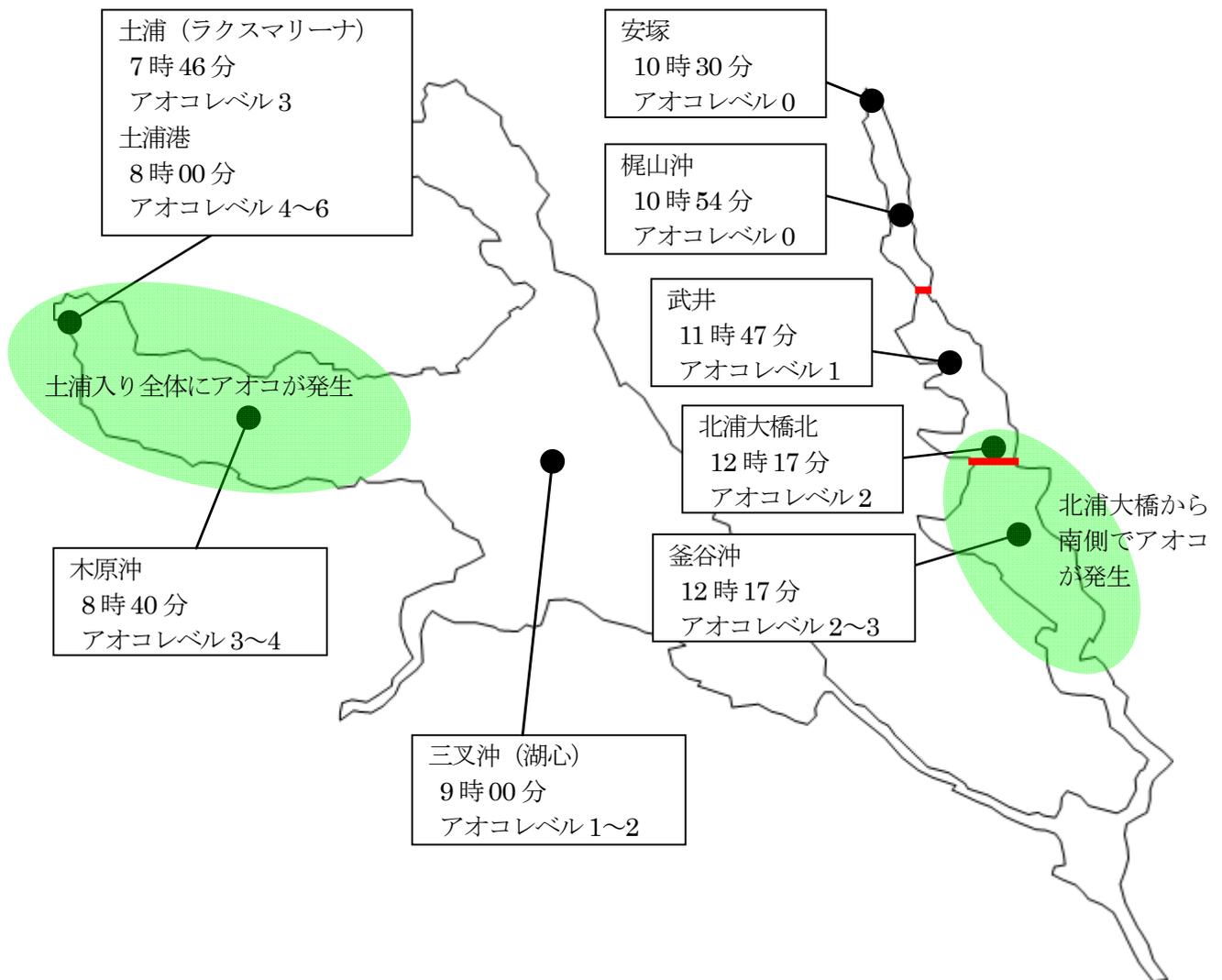


図1 アオコの発生状況

②表面水温及び透明度

表面水温は25°C前後で、アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖が盛んになる水温（最適水温は30°C程度）に近づいています。

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
土浦 (ラクスマリーナ棧橋)	晴れ	25.1	50 (70)
湖心	晴れ	24.0	90 (60)

武井沖	晴れ	24.2	90 (90)
安塚沖	晴れ	24.5	75 (95)

注) 透明度の括弧は今年の6月27日の値

③フィコシアニン濃度

アオコの原因となるラン藻にはフィコシアニンという色素が含まれています。図2のとおりアオコの量とフィコシアニン濃度とは一定の相関関係がみられるため、アオコの発生量の目安になると考えられます。

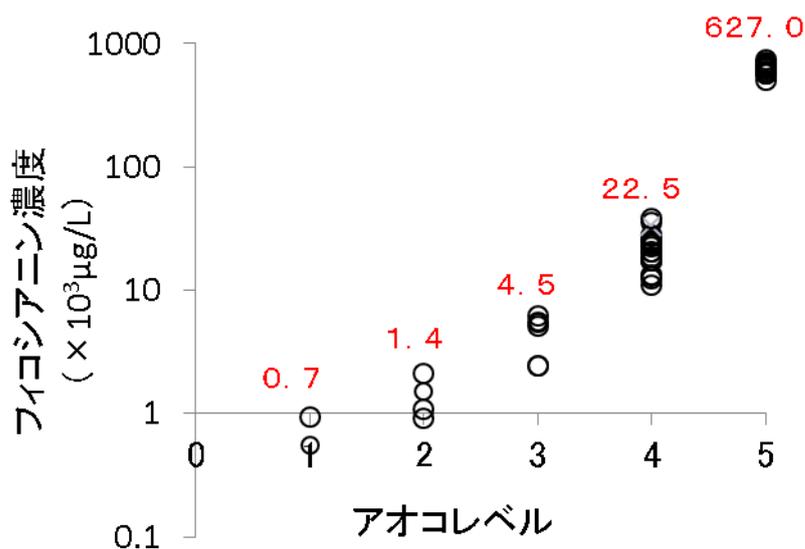


図2 アオコレベルとフィコシアニン濃度の関係 (7月4日現在)

(赤数字は各アオコレベルの平均値)

6月中旬以降のフィコシアニン濃度の推移を図3に示します。土浦では6月下旬から上昇傾向で推移しています。湖心では低いものの微増の傾向がみられます。安塚や武井では低く推移しています。

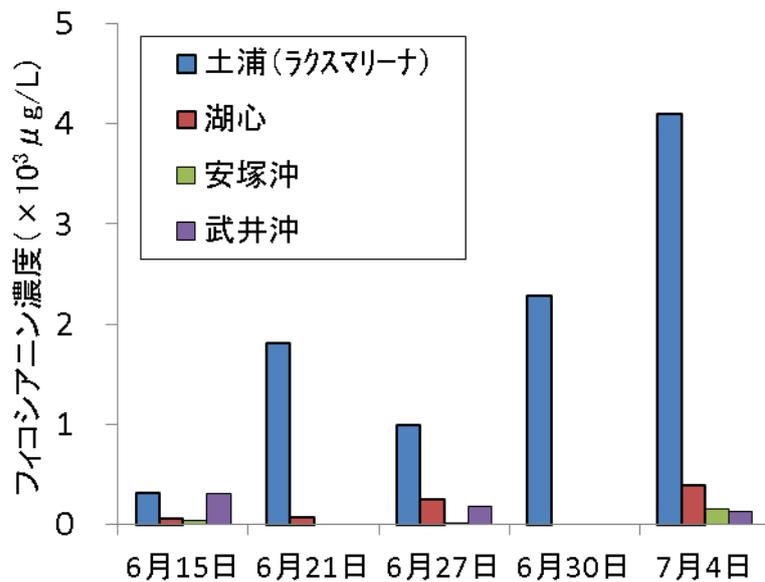


図3 フィコシアニン濃度の推移

④アオコ発生の今後の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁によれば7月8日（日）まで曇り又は雨の日が続くと予測しており、日射量が少なくなることからアオコの増殖を抑制すると考えられます。しかしながら、9日（月）から13日（金）までは「曇り」又は「晴れ」で推移し、気温は27℃を超えると予測されていることから、アオコの発生に有利になると考えられます。また、今回の調査結果からは、土浦入りや北浦南部にアオコが多く発生していることが確認されており、アオコの全体量は多くなってきていると推測されます。このことから、今後一週間は9日（月）以降にアオコの発生量が急激に増加するとともに、吹き寄せられたアオコが著しく集積する場所がさらに増加すると考えられます。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター
Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室

住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町 1853 番地

電話 029(828)0963 (dial in)

FAX 029(828)0968

